

秋の田のかりほの庵の

若さをあらみわが衣手は

露にぬれ

つ
点
の
違
い
を
い
く
ら
い
く
ら
い

中一二三

秋の田圃のほとりにある飯小屋の、屋根を葺いた苔の編み目が粗いので、私の衣の袖は露に濡れていくばかりだ。

天智天皇（一番）